特集

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト
東北支援 5年間の歩み

“東北が再び元気を取り戻すための力になりたい”——。東日本大震災からの復興を支援するため、2011年10月に開始した「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」は、5年間10期にわたり、全国の経済同友会会員・企業に広く参加を呼びかけて復興を支える寄附を集め、真に助けを必要としている被災地の方々に支援を行ってきた。その活動も2016年9月をもって終了したことから、これまでの全活動実績と支援先の現況を報告する。
また、東北支援の終了を記念して終了式典を開催し、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトの5年間が果たした役割をパネル・ディスカッション形式で報告した。

スローガン

「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」は、東日本大震災で被災した地域の人々や産業を“一歩、一歩”元気にしていこうという趣旨でスタートしました。NIPPONというアルファベットの真ん中には、IPPOという言葉が入っています。このIPPOとNIPPONを組み合わせたスローガンです。

ロゴマーク

縦に並んでいる複数の丸は、被災地が復興に向けて、前向きに「一歩、一歩」進んでいく様子を表現しています。また、日本全体が一つになって被災地の復興を応援しようという意味を込めて、日本国旗をモチーフとした赤と白の二色を使用しています。

INDEX

03 プロジェクト全活動の実績報告
05 支援を受けた専門高校の現況
06 東北支援 終了式典

プロジェクト全活動の実績報告

本活動には、全国の企業・法人496社と71人の個人にご賛同いただき、その寄附総額は21.8億円に上った。各期の実績と、その支援内容を報告する。

支援内容の決定に際しては、岩手・仙台・福島の各地経済同友会と連携し、岩手・宮城・福島の各県教育委員会、各国公立大学への調査を重ね、被災地の現場の声を聞きながら、真に必要とされる支援内容を選定し、きめ細かい支援を実施した。

特に、将来を担う若者・子どもたちに重点を置き、被災した専門高校（農業、水産、工業など）がそれぞれ必要とする具体的な実習機材・備品等の提供を中心に、国公立大学による産学連携の復興事業など、具体的成果や内容が見える支援を展開した。

第１期～第10期活動（2011年10月11日～2016年９月30日）**の実績**

各県に対する支援総額・内訳

寄附総額 21億7,894万1,493円

	岩手県	宮城県	福島県
合 計	7億1,338万2,601円	7億6,145万9,843円	7億0,409万9049円
第１期	1億1,436万0,992円	1億0,491万5,723円	1億2,223万2,232円
第２期	8,650万9,305円	8,224万8,805円	9,936万8,003円
第３期	8,986万3,930円	5,929万2,435円	1億1,434万6,100円
第４期	8,014万9,273円	1億1,367万8,458円	4,064万2,969円
第５期	8,759万2,177円	1億150万0,819円	7,390万8,555円
第６期	9,838万6,808円	1億1,434万0,204円	9,077万2,514円
第７期	6,892万8,608円	7,257万2,551円	6,744万1,744円
第８期	4,562万4,740円	4,722万2,067円	4,095万8,028円
第９期	2,996万6,768円	2,911万0,671円	1,842万8,904円
第10期	1,200万0,000円	3,657万8,110円	3,600万0,000円
うち専門高校	**5億7,093万7,735円**	**5億9,655万を6,471円***	**6億6,387万2,027円**
大学・県基金等	**1億4,244万4,866円**	**1億6,490万3,372円**	**4,022万7,022円**

＊専門高校（宮城県）には、産業教育復興フェア開催支援金3,287万円を含む

第１期活動
（2011年10月11日～2012年1月31日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約2.5億円）

岩手県立大船渡東高等学校：調理実習用食器類、宮城県農業高等学校：大型バス、福島県立磐城農業高等学校：鶏舎設備一式など。

②岩手大学、東北大学による復興事業への支援（約3,400万円）

③震災遺児・孤児基金への寄附（約5,700万円）

福島県いわき海星高校に寄贈した四級小型実習艇

第２期活動
（2012年２月20日～６月29日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約2.1億円）

岩手県立久慈工業高等学校：NC旋盤、宮城県水産高等学校：クレーン車、福島県立勿来工業高等学校：ガスクロマトグラフなど。

②岩手大学、東北大学、宮城大学による復興事業への支援（約3,100万円）

③震災遺児・孤児基金への寄附（約1,900万円）

第３期活動
（2012年８月27日～2013年１月31日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約2.3億円）

岩手県立釜石商工高等学校：数値制御工作機械、宮城県気仙沼向洋高等学校：GMDSS無線設備、福島県立塙工業高等学校：ターニングセンターなど。

②岩手大学、東北大学、宮城大学による復興事業への支援（約2,300万円）

③震災遺児・孤児基金への寄附（約1,100万円）

岩手県宮古水産高校に寄贈した小型トラック

第４期活動
（2013年３月１日～７月31日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約1.83億円）

岩手県立種市高等学校：潜水用通話装置、宮城県農業高等学校：トラクター、福島県立平工業高等学校：六尺旋盤など。

②宮城県 産業教育復興フェア開催への支援（600万円）

③岩手大学、東北大学、宮城大学による復興事業への支援（3,500万円）

岩手県久慈東高校に寄贈した、たん吸引装置

岩手大学 三陸復興推進本部

三陸沿岸地域の復興を支援する「三陸復興推進本部」に対して、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは約１億円を支援。北里大学海洋生命科学部三陸キャンパスの閉鎖により研究・産学連携拠点が失われたことから、新たに設置した釜石サテライトを中心とした産学官連携による水産業復興を支援している。

2012年２月 岩手大学での寄附目録贈呈式

第５期活動
（2013年９月２日～2014年１月31日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約2.1億円）

岩手県立宮古工業高等学校：CADシステム一式、宮城県気仙沼向洋高等学校：集中式溶接ヒューム集塵装置、福島県立磐城農業高等学校：ミニショベルなど。

②宮城県 産業教育復興フェア開催への支援（約1,587万円）

③岩手大学、東北大学、宮城大学による復興事業への支援（3,300万円）

福島県磐城農業高校に寄贈したミニショベル

第６期活動
（2014年３月３日～７月31日）

宮城県石巻工業高校に寄贈したバンドソーマシン

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約2.48億円）

岩手県立高田高等学校：食品放射能測定システム、宮城県白石工業高等学校：CADシステム一式、福島県立磐城農業高等学校：牛乳殺菌器など。

②宮城県 産業教育復興フェア開催への支援（1,100万円）

③岩手大学、東北大学、宮城大学による復興事業への支援（1,350万円）

第７期活動
（2014年９月１日～2015年１月30日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約1.62億円）

岩手県立高田高等学校：蒸気ボイラー、宮城県登米総合産業高等学校：立型フライス盤、福島県立小高工業高等学校：マシニングセンターなど。

②岩手大学、宮城大学による復興事業への支援（3,342万円）

宮城県農業高校に寄贈した旋盤

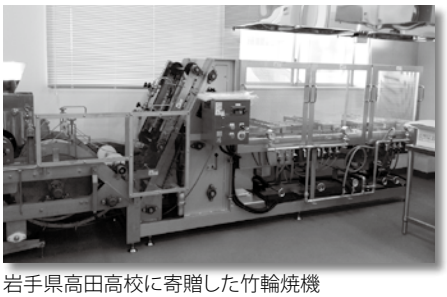
第８期活動
（2015年３月２日～７月31日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約1.23億円）

岩手県立高田高等学校：竹輪焼機、宮城県古川工業高等学校：油圧式万能試験機、福島県立勿来工業高等学校：高電圧実験装置など。

②岩手大学、宮城大学による復興事業への支援（約1,055万円）



岩手県高田高校に寄贈した竹輪焼機

第９期活動
（2015年９月１日～2016年１月29日）

●主な支援内容

①専門高校への実習機材の提供（約5,606万円）

岩手県立高田高等学校：小型船舶シミュレータ、宮城県気仙沼向洋高等学校：六尺旋盤、福島県立平工業高等学校：フライス盤など。

②岩手大学、宮城大学による復興事業への支援（2,145万円）

第10期活動
（2016年３月１日～９月30日）

特に大きな被害を受けた岩手県立高田高等学校、宮城県農業高等学校、福島県立いわき海星高等学校など７校に、実習機材購入費としてそれぞれ1,200万円を支援。

Q なぜ県立の専門高校に支援が必要なのか？

「復旧」は国の補助金の対象だが、「復興」は対象外になる。つまり、「壊れた物」「失われた物」でないと補助金が認められないため、それを証明する県の台帳に記載されていない備品、例えば最先端の高機能な設備や、小額の工具・機材などは補助の対象にはならない。そのため、現地の喫緊のニーズに応えられる復興支援が必要である。

Q 専門高校への支援は役に立っているのか？

支援を受けた各専門高校では、実習機材を活用した生徒たちが素晴らしい実績を挙げ、資格取得、就職・進学が震災前の水準を上回っている。宮城県農業高校の志願倍率（2014年４月入学）が普通高校を含めた県内の全校で最高に達するなど、学習環境の改善が広く理解されている。

専門高校の卒業生は地元で就職する割合が高い。総じて卒業生の約７割が就職し、半数以上は地元や県内の企業を選ぶ。彼らの技能が地域の産業基盤となり、地域の経済活性化にも役立っている。

宮城大学 南三陸復興ステーション・プロジェクト

南三陸町内に設置された「南三陸復興ステーション」では、復興計画の策定支援にとどまらず、ワカメやソルトブッシュを飼料とした羊肉のブランド化事業や、志津川産タコのブランド力向上、養蚕事業に対する支援などの産業育成に取り組んでいる。IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは6,900万円を支援した。

支援を受けた専門高校の現況

将来を担う人材育成の観点から、本プロジェクトが最も注力したのが専門高校への支援である。支援を受けた専門高校は計46校、支援総額は18.3億円になった。

岩手・宮城・福島の各県は独自の予算によって各学校の復興を支援している。しかし、生徒数・学校数が多い普通科の高校も大きな被害を受けている以上、限りある県予算を生徒数・学校数の少ない専門高校に優先して振り向けることは難しい。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、こうした公的支援が行き届かない専門高校のニーズをくみ取り、きめ細かい支援を届けてきた。その支援内容と現況の一部を報告する。

岩手県立高田高等学校

震災・津波により陸前高田市の校舎が壊滅的被害を受け、大船渡市にある大船渡東高校萱中校舎を借用して授業を実施した。海洋システム科の実習機材のほか、新校舎で使用するボイラー、竹輪焼機、船舶シミュレータなどを支援した。2015年春に陸前高田市内の高台に新校舎が完成し、再び高田の地で授業に取り組んでいる。

宮城県農業高等学校

津波により校舎が壊滅的被害を受けたため、現在は宮城県農業園芸総合研究所内に仮設校舎を設置して授業を実施している。以前の場所での再建は不可能なため、2018年度に向けて新校舎の建設を進めている。

仮設校舎と実習場を移動する大型バスのほか、津波で壊れたトラクターや旋盤などの多数の機材を提供した。

寄贈した大型バス

宮城県気仙沼向洋高等学校

津波により校舎3階までが水没し壊滅的被害を受けたため、現在は気仙沼高校第2グラウンドの仮設校舎で授業を実施している。現在、沿岸の高台で新校舎の建設を進めており、2018年の完成を目指している。

通学用の中型バスのほか、一般的な仮設校舎内には備わっていない調理室設備一式や溶接実習に必要な集塵装置などの設備を提供した。

福島県立磐城農業高等学校

4月11日にいわき市直下で発生した余震により、校舎・実習棟が壊滅的な被害を受け、多数の機材が使用できなくなったほか、梨園などでの農場実習も不能になった。そのため、トラクター・コンバインなどの農機具、鶏舎・梨棚などの実習設備を多数寄贈した。

震災直後に近隣の学校を間借りして授業を再開した後、2011年夏から4年間にわたった仮設校舎での授業を終え、2015年春に新校舎が完成した。2016年秋には実習棟の整備も完了し、新校舎竣工記念式典を開催して新たなスタートを切った。

寄贈した鶏舎設備一式

福島県立いわき海星高等学校

津波により校舎1階が水没し、実習棟も壊滅的な被害を受けた上、沿岸の艇庫・倉庫も津波の直撃を受けて多数の実習機材が失われた。第1期活動で四級小型教習艇を寄贈したのを皮切りに、播潰機から椅子・カーテンなどの備品に至るまで多数の機材を支援した。

建築中の実習棟

震災直後は近郊の小名浜高校を利用して授業を再開したものの、学科の性格上、沿岸部の校舎での授業再開が必要と判断し、2012年1月より校舎2階以上を利用して授業を再開した。2014年秋に校舎の復旧を終え、実習棟や体育館なども再建されたが、学校施設周辺の整備工事は今も続いている。

福島県立小高工業高等学校

本校舎が福島第一原子力発電所から20キロ圏内に立地していたため、2011年度は県内各地の工業高校に分散して授業を実施した。2012年4月に完成した南相馬市原町地区の仮設校舎に、CAD・CAMシステム一式やガスクロマトグラフなどの機材を支援した。

来年春に小高商業高等学校と合併し、小高産業技術高等学校として新たなスタートを切る。避難指示が解除された地域で初めて授業を再開する高校であることから、福島県の復興を担う人材の育成が期待されている。

CAD・CAM実習の様子

活躍しています！

■岩手県立高田高等学校

寄贈した高圧蒸気殺菌・冷却装置を使用して作成した「たかこうサバカレー」は、2013年度いわて特産品コンクール食品部門で「いわての物産展等実行委員会会長賞」を受賞した。

■宮城県農業高等学校

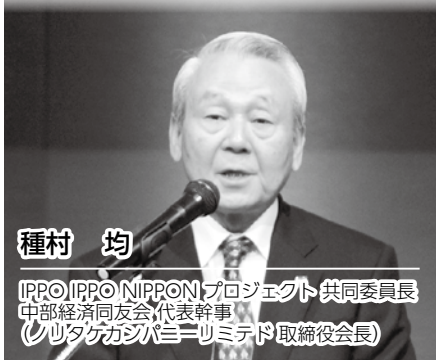
地元食材を使用したオリジナル料理を全国の高校生が競う「第2回ご当地！絶品うまいもん甲子園」で、通学バスや冷凍・冷蔵庫などを寄贈した宮城県農業高校の「伊達なハイカラぎょーざ」が優勝し、「農林水産大臣賞」（最高賞）を受賞した。

東北支援 終了式典

11月６日に開催した終了式典では、これまでの支援活動を報告するとともに、岩手・宮城・福島３県における産業教育の復興と地域産業の発展に向けてパネル・ディスカッションを行った。また、東日本大震災と熊本地震を乗り越えた生徒たちによる演奏が披露され、本プロジェクトによる支援への感謝が表明された。

●開会挨拶

助け合いの精神を末永く受け継いでいこう



種村　均
IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 共同委員長
中部経済同友会 代表幹事
（ノリタケカンパニーリミテド 取締役会長）

終了式典の開会に当たり、種村均共同委員長は、「東日本大震災の被害は甚大であり、被災からの復興はいまだ道半ばである。今なお、かけがえのない親族、友人を失った痛みに耐えながら復興に取り組んでいる大勢の方々がいる。この『IPPO IPPO NIPPON プロジェクト』は、そうした災害からの復興を支援したいとの思いから、全国の経済同友会会員に呼びかけて寄附を募り、地域の将来の担い手である若者の育成に重要な役割を持つ専門高校への実習機材等、現物の寄附を中心に支援を行ってきた。本プロジェクトによって、失われた機材や設備等の回復が早期に進み、多くの生徒、学生に対する励ましになったものと確信している」と述べた。

さらに、「東北支援は本日をもって終了となるが、本プロジェクトが掲げた助け合いの精神は、日本人の尊い心として、また全国の経済同友会の精神として、この後に末永く受け継がれていくであろう」と思いを述べた。

●パネル・ディスカッション

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトと産業教育

■パネリスト
高橋 嘉行 氏　岩手県教育委員会 教育長
髙橋　仁 氏　宮城県教育委員会 教育長
大沼 博文 氏　福島県教育委員会 教育次長

■司会 久慈 竜也
IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 運営委員長
岩手経済同友会 副代表幹事
（久慈設計 取締役社長）

岩手・宮城・福島３県における産業教育の役割と地域産業の発展に向けた取り組みが、各県教育委員会から報告された。

各県ともに、地域を支え、地域の発展を担うプロフェッショナル人材の育成において、本プロジェクトの活動が果たした役割は大きかったと感謝の言葉が述べられた。

宮城県の髙橋仁氏は、「国の支援制度は原状回復が原則である上、県の財政はさまざまな災害対応で厳しい。その点、本プロジェクトは本当に必要なものを速やかに、直接、現物で届けていただき即効薬となった」と語った。

また、地域貢献をしたいと考える生徒が増加しており、地元への就職の割合が増え、復興を担う人材を多く送り出している。その上、卒業生の専門知識・技術面から就職先での評価も高く、県庁や市役所、地元の学校への就職も増えているとの報告があった。

福島県の大沼博文氏は、ロボット制御機器など提供された機材を利用した「実習授業」の継続が、生徒の意欲を引き出し、学校の活力を高める役割を果たしたと本活動を高く評価した。

「いわき海星高校では寄贈された教習艇による実習で、多くの生徒が想定以上に早く二級小型船舶操縦士の資格を取得できた。また、通信機器などの高度な設備に触れることで、生徒たちの理解度や学習意欲の向上につながり、上級の無線従事者国家資格を受験

髙橋　仁 氏
宮城県教育委員会 教育長

大沼 博文 氏
福島県教育委員会 教育次長

する生徒が増え、地元の漁業無線局や福島県水産試験場に就職するなど、地域の水産業で活躍する人材を輩出することにつながった」と語り、地元に就職を希望する生徒が増加し、即戦力として活躍していると報告した。

岩手県の高橋嘉行氏は、専門高校による産業教育が、地域産業への就労機会の拡大をもたらし、ひいては地域産業の発展を促す役割を担っていると述べた。

その上で、「IPPO IPPO NIPPON プロジェクトで充実した実習授業を受けた卒業生が県内に就職することは、地域産業の担い手を育てただけではなく、地域経済を活性化させる消費者・子育て世代が地域に定着することを意味している。地域経済・地域社会の持続的発展にもたらした影響は大きい」と述べた。

また、地元で就業した卒業生は、各地域で安定した生活を営みながら、魅力あるまちづくりにも参画している。卒業生の多くは、就職時の志望動機に地域への貢献を挙げていると報告した。

高橋 嘉行 氏
岩手県教育委員会 教育長

●パフォーマンス

震災を乗り越えた生徒たちによる演奏

小幡 尚孝
IPPO IPPO NIPPON プロジェクト運営委員
経済同友会幹事
（三菱UFJリース相談役）

東日本大震災によって被害を受けた高田高校の吹奏楽部の生徒たちによるパフォーマンスが披露された。

演奏を受けて小幡尚孝運営委員が「本日演奏された高田高校の皆さんは、震災当時は中学生や小学生でした。つらいこともたくさんあったでしょうが、これからの人生の上で非常に貴重な経験になるでしょう」とエールを送った。

岩手県立高田高等学校吹奏楽部

「今、私たちが笑顔で勉強や部活動に打ち込めるのは、皆さまのご支援のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです」

●東北から熊本へ

東北で、熊本で、これからも活動を続けていく

小林 喜光
IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 共同委員長
経済同友会 代表幹事
（三菱ケミカルホールディングス 取締役会長）

小林喜光共同委員長は閉会に当たり、「本プロジェクトは、提言を活動の中心としてきた経済同友会にとって、初めてといっていい具体的な支援活動である。東北支援活動は本日をもって終了するが、これからも、専門高校の生徒らの成長を見守りながら、東北の復興を支え続けていきたい」と述べた。

一方、本年４月には最大震度７という大地震が連続して熊本県を襲い、大変な被害が発生した。

「共に助け合い支え合う『共助』の精神を自ら実践することで、次世代へと引き継いでいく責務を負っている。東北に引き続き、将来へとつながる具体的な支援を熊本でも展開していきたい」と協力を求めた。

熊本県立熊本工業高等学校吹奏楽部

熊本工業高校の吹奏楽部の生徒によるパフォーマンスも披露された。「実習棟や実習機材が被災し、吹奏楽部としても楽器の損傷や行事の中止など、受け止め難い現実を目の当たりにしてきましたが、前向きに練習を続けています」

熊本支援 ご協力のお願い

熊本県の専門高校の子どもたちが置かれた状況は、これまで本プロジェクトが支援を行ってきた東北３県の状況とまったく同じです。そこで、真に支援を必要とする専門高校にきめ細かく確実な支援をお届けするべく、熊本経済同友会と協力し、2016 年９月から 2017 年４月までの２期にわたる支援活動を実施いたします。つきましては、活動の趣旨にご賛同いただくとともに、善意のご厚志・ご支援をお願い申し上げます。

お問い合わせ先
IPPO IPPO NIPPON プロジェクト運営事務局（経済同友会 事務局内）
TEL：03−3284−0316 ／ E-mail：ippo@doyukai.or.jp ／ Fax：03−3214−6802
http://www.doyukai.or.jp/ippo/activity_kumamoto/act01.html